

(別添3)

瀬戸内町校務DX計画

本町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度から町内すべての小中学校に1人1台端末(タブレット端末)を導入しているほか、児童生徒の成績情報等を管理する校務支援システムや、グループウェアを活用し、伝達事項や各種資料等をクラウド上で共有することで公務の効率化を推進してきた。

また、保護者連絡用アプリケーションツール等の導入により教員と保護者間の連携をデジタル化してきた。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきているが、学校現場においては、様々な課題が山積している。「GIGAスクール構想のもとでの校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果を踏まえつつ、具体的な取組を次のとおりとする。

1 業務の効率化の推進

(1) 教職員の資質向上

AIドリル、授業支援ソフトの活用法の研修の実施

Google for Educationパートナー自治体として教職員等への研修を充実

(2) グループウェアによる業務連絡及びペーパーレス化の実施

ア 出退勤の管理

イ 行事計画や連絡事項の周知

(3) FAX・押印の見直し、データでの提出を推奨

ア 各種申請書や報告の押印を省略し、データでの提出推奨

イ 校務系ネットワーク(学校間共有フォルダ)を活用した資料の共有

(4) 校務支援システムによる諸帳簿の作成

ア 通知表

イ 指導要録

ウ 出席簿

(5) 安心・安全メールの活用

不審者情報等の即時連絡

(6) 学校便りのHP掲載によるペーパーレス化

2 学校情報セキュリティポリシーの策定

本町の学校情報システムは「瀬戸内町情報セキュリティポリシー」を準用して適用している。今後、クラウドシステム間のデータ連携等の教育DXを推進していくうえでは、情報セキュリティポリシーを見直し・改善し学校教育の現場にあったセキュリティ対策基準を策定する必要がある。

3 次世代の校務支援システムの整備

現在の校務支援システムは、オープンレミス型により運用しているが、クラウド型校務支援システムへの移行を見通した整備を検討する。